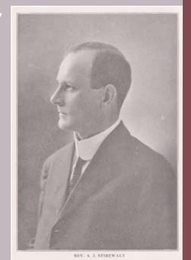
創設期・キリスト教主義学校の設立

学院主事、神学部長に就任したスタイワルト

1916(大正5)年4月
1916(大正5)年3月23日
ブラウン帰米

1916(大正5)年4月、帰米したブラウンに代わり、スタイワルトが九州学院主事および神学部長に就任。「九州学院神学部専門学校」校舎が建てられるまで、この本校舎の修身教室で神学部の授業は行われていました。



九州学院神学部専門学校
1916(大正5)年5月15日認可

- 同年5月5日、九州学院財団法人の認可(文部大臣の認定)。
- 同、神学部、専門学校令による認可。
- 1921(大正10)年「九州学院教会」設立(熊本教会から分離。牧師:E.T.ホーレン)
- 1925(大正14)年2月「ブラウン記念礼拝堂」竣工。
- 1925(大正14)年9月
  鷺宮に移転し、「日本ルーテル神学専門学校」となる。

神学部の専門学校令による設置認可は、4月23日付で通達されました。また、5月10日付で九州学院財団法人の認可が熊本県内務部長よりブラウン宛に通達されました。

1916(大正5)年5月5日付

九州学院 財団法人 設立許可

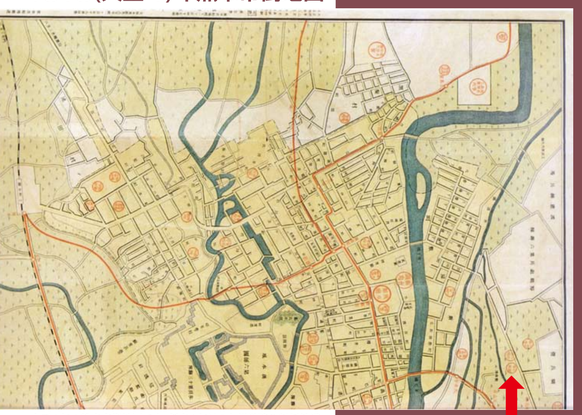
九州学院財団法人は1916(大正5)年5月5日、文部大臣法学博士高田早苗により許可されました。

九州学院神学部専門学校校舎と寮

左棟:1916(大正5)年　　右棟:1918(大正7)年

九州学院の校舎(本館)で行われていた神学部の授業は、1916(大正5)年、アメリカのルーテル教会からの支援により建てられた「九州学院神学部専門学校」の校舎で行われるようになりました。更に、1918(大正7)年には東側にもう一棟建ち、校舎と寮が完備されました。この校舎での授業は、1925(大正14)年9月、東京・鷺宮に神学校が移転し、「日本ルーテル神学専門学校」となるまで続きました。鷺宮の神学校の土地は、九州学院財団法人が購入しました。

1915(大正４)年熊本市街地図



大正4年の熊本市街地図です。創立4年目の九州学院や軽便鉄道の路線図も載っています。

1912(明治45)年4月

創設期の教職員

創設期の教職員。上段左より右へ:高橋邑重(国語・漢文)、田添太郎彦(剣道)、緒方龍門(英語)、玉置豊助(物理・化学)、岡村周平(数学)、阪田武一郎(庶務会計)。2列目左より:高橋長七郎(音楽)、山崎兎茂吉(図画)、川本謙次郎(体操)、E.T.ホーレン(英語)、J.M.T.ウィンテル(神学部教授)、尾方勝弥(書道・修身)、上妻博之(博物)。前列左より:藤田静雄(歴史・地理)、譜本幸吉郎(神学部教授・熊本教会牧師)、遠山参良(院長)、C.L.ブラウン(主事)、久保徹(英語・神学部主任教授)、藤井寅一(国語・修身)。

九州学院と九州学院神学部

- 1911(明治44)年9月、神学部主任教授に久保徹(プリンストン大学で神学・哲学を修める。中学部の学科も担当、後「るてる」の主筆)、中学部教師に玉置豊助(東京帝大理学部卒。中学部数学・理科、神学部自然科学担当)就任。
- 1912(明治45)年、神学生に石松量蔵(雄崎)、武藤勝(久留米教会)を迎え入る。
- 2月17日、今井良雄、熊本県立病院にて永眠。
- 6月30日、川瀬信太郎、神学校卒業。
- 1912(大正1)年11月、中央校舎(本館)完成。
- 1913(大正2)年7月、神学部主任教授・久保徹(カント哲学、改革派神学)辞任。
- 同9月、村上二郎、米国留学から帰り、英語を担当。
- 同9月、川崎升、鹿児島学院から移り、英語と解決を教え、神学部では、基督教倫理と弁証学を担当。
- 同10月31日、「繁明会」を組織結成。(神学生志望者)

九州学院開校時からの神学部の経緯。
1912(大正1)年11月に中央校舎(本館)が完成。建築費総費用54,000ドル、募金約51,000ドルを超えました。

第2期生95名

1912(明治45)年4月本校舎前

1912(明治45)年4月、第2期生95名が入学。本校舎前で。

九州学院神学部学生

1912(明治45)年4月

明治45年の神学部学生。後列左から:渡邊潔、亀山萬里、三浦豕、武藤勝。前列左から:石松量蔵、川瀬徳太郎、本田傳喜の7名。『九州学院要覧』より。

第1期生2学年

1912(明治45)年4月本校舎前

第1期生2学年、本校舎前にて。

九州学院神学部卒業式

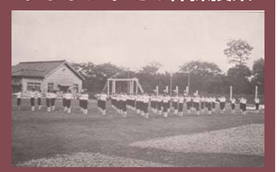
それまでの卒業生:松本学明、高橋信太郎、川瀬徳太郎

●予科二年・本科三年修了、　卒業生(新任地)
三浦豕(下関)、　亀山萬里(日田)、　本田傳喜(熊本)、
石松量蔵(雄ヶ崎)、　渡邊潔(大牟田)
5名の卒業後、しばらく(9ヶ月間)休校。

1915(大正4)年6月・九州学院修身教室

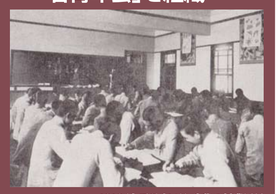
1915(大正４)年6月21日、校長ブラウンの司会の下に卒業式が挙行されました。5名の神学部学生が卒業すると、学生がいなくなり、その後9ヶ月間休校となりました。

グラウンドでの体操授業



雨天体操場横のグラウンドでの体操授業。

「九州学院キリスト者青年会」を組織



1913(大正2)年4月　生物の授業風景

1913(大正2)年4月、第3期生133名が入学。在学生徒302名、教職員22名となりました。
キリスト教主義学校として、聖書研究会を毎週水曜日午後に開催。出席者多数のため、1組:遠山院長、2組:ブラウン主事、3組:川崎升、4組:久保徹、5組:藤井寅一と分担して聖書研究会を行いました。また、「九州学院キリスト者青年会」が組織され、会員60余名を数えました。
同年6月7日、第4回「基督教教育同盟会」に初出席し、同盟に加盟。

九州学院神学部教授陣と神学生

1911(明治44)年・九州学院の寄宿舎前

(後列左より)渡邊潔、亀山萬里、村上二郎、川瀬徳太郎、松本學明、高橋信太郎、三浦豕、今井良雄、本田傳喜(前列左より)豊山晴誠、遠山参良、奥太一郎、ブラウン、ウィンテル、高橋長七郎、秋元茂雄
九州学院開校時の九州学院神学部教授陣と神学生8名です。授業が行われていた寄宿舎入口の前(東側)での写真です。

九州学院神学部の教科目・教授陣

- 1910(明治43)年7月、山内直丸が健康の都合で博多に転じ、熊本申吉郎が熊本教会に招聘される。
- 1911(明治44)年4月の神学部(神学担当:ブラウン)

【本科1(3年)】

礼拝学、教理問答、教義学、ロマ書講解:	ブラウン
教会史、旧約史、イザヤ書講解、聖書概論:	ウィンテル
教会学、コハネ書講解、パウロ伝:	秋元茂雄
伊藤論、基督教倫理:	遠山参良
音楽(予科と共同):	高橋長七郎
「パイプル・パイプリファー」、プルース著「アポロヒドゥス」:	ブラウン
ルターの聖書書の講義:	ウィンテル

【予科1(2年)】

心理学、論理学:	奥太一郎
英語、歴史:	村上二郎
聖書倫理:	ウィンテル
英語:	ブラウン
聖書:	熊本申吉郎
その他、数学、漢文等	

1911(明治44)年4月・九州学院の寄宿舎前

九州学院神学部の授業も当初は寄宿舎の仮教室で行われました。翌年本校舎(本館)が竣工すると、校舎の修身教室で授業がおこなわれました。これは、1916(大正5)年に神学部校舎が九州学院敷地の北側にできるまで続きました。

本校舎　1912(明治45)年4月竣工

1912(明治45)年4月本校舎竣工

1912(明治45)年4月、本校舎竣工。木造2階建て600坪。教室・職員室・神学部等を寄宿舎から移転。第2回入学試験が本校舎で行われ、275名が受験し、96名が合格、95名が入学しました。

開校時に間に合った雨天体操場

開校時に間に合った雨天体操場(体育館)。

雨天体操場に集合した受験生

1911(明治44)年4月15日の開校時までに本校舎の建設と設備が完成しなかったため、受験生は雨天体操場に集合し、入学試験は落成した寄宿舎を仮校舎として行われました。

1911(明治44)年4月 寄宿舎で授業開始

本館竣工が間に合わなかったため寄宿舎1階を仮教室として授業を開始

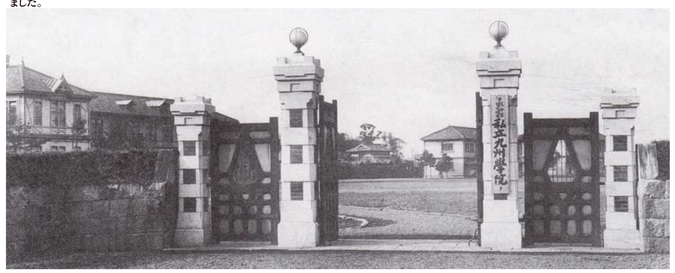
本校舎の建築は急ピッチで進められましたが、1911(明治44)年4月の開校時に間に合ったのは、寄宿舎と体育館(雨天体操場)、院長住宅などでした。

院長住宅

寄宿舎南側

構内の院長住宅。遠山院長と家族は、この院長住宅に居住しました。

創立時の正門



表札は「私立九州学院」

1911(明治44)年4月、「私立九州学院」の入学試験を実施。受験者228名。〔規程摘要〕本学院は男子に中等程度の普通教育を施すを以て目的とす。〔修業年限〕5ヶ年

寄宿舎の食堂

1912年4月竣工

1912(明治45)年4月、寄宿舎の食堂・台所・炊事場も完成。

第1回九州学院入学試験問題

第1回九州学院入学試験問題(国語と算術)。
228名が出願し、122名を合格者として入学を許可しました。長崎次郎書店が出版していた『明治44年施行　熊本県中等諸学校入学試験問題集』より。

1911(明治44)年4月

1910(明治43)年1月19日設立認可

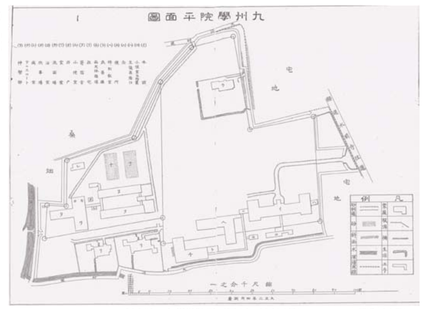
明治43年1月19日付けで、熊本県知事・川路利恭から設立者チャールス・エル・ブラウンに対し、私立学校の設立が認可されました。

九州学院と九州学院神学部

- 1911(明治44)年3月18日、遠山参良(満45歳)、院長に就任。ブラウン(満37歳)、主事に就任。
- 4月15日九州学院が開校。最初の入学試験は寄宿舎を仮校舎として行い、228名が出願し122名が合格。入学式は、雨天体操場で行われた。
- ●「路帖神学校」は、仮教室(西子飼町)から開校した九州学院内に移転し、「九州学院神学部」に改組。

九州学院が開校すると、路帖神学校は、仮教室(西子飼町)から移転し、「九州学院神学部」に改組されました。「九州学院」という名称は、遠山参良が院長に就任する前に、山内直丸牧師がブラウンや学院創設協力者と相談して付けたようです。

創立時の九州学院平面図



創立時の九州学院平面図(大正2年4月)。　(大正2年4月)

1909(明治42)年9月27日、「路帖神学校」が新屋敷町412番地のスタイワルト宅を仮校舎にして開校。校長にブラウンが就任。この地が九州学院の発祥の地とされています。

九州学院の系譜

九州学院の系譜。

福音路帖神学校の学科目・教授陣

【学科目・教授】(開校時)

旧約歴史(2時間)	ウインテル
旧約聖書釈義(2時間)	ウインテル
聖書地理(1時間)	ウインテル
新約聖書釈義(2時間)	ブラウン
教理(2時間)	ブラウン
新約歴史(3時間)	山内直丸
教会歴史(2時間)	山内直丸
倫理学(2時間)	山内直丸
説教学(1時間)	秋元茂雄(日本基督教会牧師)
英語(3時間)	スタイワルト
音楽(1時間)	高橋長七郎

「路帖神学校」開校時の学科目および教授陣です。

路帖神学校の神学生

【開校時1909(明治42)年9月、4名
松本学明(久留米教会)
入江(川瀬)儀太郎(博多教会)
高橋儀太郎(熊本教会)
草野又五郎(熊本教会)
【明治43年】8名
本科二年級学生:松本学明、入江(川瀬)儀太郎、
高橋儀太郎
予科生(4月):三浦豕、亀山萬里(久留米教会)
予科生(9月):本田傳喜(熊本教会)
予科生(12月):今井良雄(久留米教会)、
渡辺淑(熊本教会)
●1911(明治44)年3月
第1回卒業生・松本学明(神学校生活2年未満)
～4月、目前に講義所を開設。

「路帖神学校」の神学生の顔ぶれです。

九州学院設立準備

- 1909(明治42)年11月22日、学校敷地約1万坪の土地を代価2万5千円(約13,600ドル)で購入。熊本市外大江村字本(県立工業学校の南隣り、騎兵隊連隊の向隣り、当時は桑畑)
  地所検分には、山内直丸牧師、福田令寿、中原工学博士(熊本高等工業学校長)、遠山参良等の諸氏が当たり、山内が交渉し買い取った。
- 1910(明治43)年1月19日、九州学院の設立認可。
- 同2月、生徒寄宿舎が竣工、各学科担任の教師もほぼ確定。
- 1910(明治43)年4月26日、スタイワルトがミッションスクールの募金の訴えを主な仕務として一時帰国。
- 8月7日パージニア州ローノーク会議にスタイワルト出席。
  3ボード(南部一致シノッド、ジェネラルカウンシル、一致テンマーク教会)による教育事業協約締結。各ボード年間1万5千ドル負担、学校設立のために2万5千ドルの追加可決。
- 1910(明治43)年9月30日、遠山参良、ブラウンの院長就任を懇請に応え、五高を依願免本官、講師嘱託となる。

路帖神学校を開校すると、ブラウンはミッションスクール九州学院の設立準備に従事します。1910(明治43)年の春には開校できると、ブラウンは目論んでいましたが、日本経済は日露戦争(1904年2月～1905年9月)後の経済恐慌に見舞われ、増税や諸物価の高騰により国民の生活は貧困化し、労働争議が頻発。土地や建築資材の価格も高騰し、追加資金が必要となりました。そのため、スタイワルトが、一時帰国し更なる募金の訴えをしました。そして、パージニア州ローノーク会議で3ボードによる教育事業協約が締結されました。「これは日本でのミッションスクール設立の共同作業の開始であり、かつ在日宣教師会の協力態勢の確立となった日本伝道共同計画を策定した会議」となりました。

「私立熊本高等予備学校」設立
(路帖教会の教育事業の先駆)

設置年月:1908(明治41)年8月12日設立認可
開　　校:同9月15日午後1時開校式
所 在 地:飽託郡大江村大江477(旧向栄社跡)
設立者又は校主校長:アーサー、ゼー、スタイワルト
教養の主なる教科:中卒程度の者に高級学校入学準備
入 学 料:2円　　授業料毎月:2円
入 学 生:59名(甲乙の二組に分け授業)
責 任 者:熊本市水道町18番地山内直丸方
　　私立熊本高等予備学校創立事務所

ブラウンの後任宣教師として1906(明治39)年1月、熊本に着任していた・I・スタイワルトが、熊本教会山内直丸牧師と1908(明治41)年9月15日、「私立熊本高等予備学校」を熊本市外大江村に開校しました。後の九州学院と隣接していた場所でした。新入生59名を迎えて、15日午後1時、開校式が行われ、熊本高等工業学校長中原工学博士、ミラー宣教師が臨席し、スタイワルト校長、講師の杉山、児島、遠山参良、高橋の訓示がありました。翌日16日から授業が始まりました。この「熊本高等予備学校」は、日本福音ルーテル教会の日本における教育事業の先駆となりました。

「熊本高等予備学校」の教科目・教師

・英語会話・書取(2時間)	スタイワルト
・英語訳解(3時間)	遠山参良(五高教授)
・英語文法・作文(3時間)	高橋正熊(高工教授)
・国語(2時間)	本田　弘(五高教授)
・漢文(2時間)	児島献吉郎(五高教授)
・数学代数(2時間)	杉山岩三郎(五高教授)
・数学幾何学(2時間)	早川金之助(五高教授)
・修身(1時間)	山内直丸

＊毎日午後1時から4時間ずつ授業。
＊1909(明治42)年6月26日突然閉鎖。「文部省訓令第12号」によるものか、五高など官立の教授が教師であったことが原因。

教科目と教師の一覧です。毎日午後1時から4時間ずつで、週全20時間の授業でした。1909(明治42)年4月、新たに95名の入学者を迎え、計130名の盛況となっていたが、6月26日、突然閉鎖されました。

福音路帖神学校設立準備

- 1909(明治42)年2月22日ブラウンは、ミッションスクールの土地取得のため内務省に社団法人の認可を申請する必要があり上京。
  東京の各学校の実状を視察調査。3月2日帰熊。
- 6月21日付けで　社団法人「在日本アメリカ合衆国南部福音ルーテル教会一致シノッド宣教師社団」の認可が下り、日本での土地取得が可能に。
- 1909(明治42)年9月27日、学校敷地の購入に先駆けて、スタイワルト宅(新屋敷町412番地)を仮校舎にして「路帖神学校」が開校。

当時、ミッションスクールの土地取得のためには社団法人を申請する必要があり、ブラウンは上京。1909(明治42)年6月21日付けで、社団法人の認可が下りました。そして、学校敷地の購入に先駆けて、1909(明治42)年9月27日にスタイワルト宅(新屋敷町412番地)を仮校舎にして「路帖神学校」が開校しました。

路帖神学校(福音ルーテル神学校)

開校年月:明治42年9月27日
廃止年月:明治44年4月九州学院に併合
　　同学院神学部と称す
所 在 地:初　古新屋敷町(新屋敷町412番地、スタイワルト宅)、後傘3番丁、西子飼町
設立者又は校主校長:チャールス、エル、ブラウン
教養の主なる教科:神学を授け基督教の牧師を養成す
備考:中学卒業程度の学力あるものにつき予科二年本科三年の教育をなす

校長にブラウンが就任し、「イエスキリストの純福音を教ふる基督教々役者(牧師)」を育てる本格的な神学教育が始まりました。古新屋敷町(新屋敷町412番地スタイワルト宅、現・新屋敷1丁目)で開校した「路帖神学校」は、その後、傘3番丁(明午橋の東側、現・新屋敷2丁目)に移り、更に、西子飼町(現・東子飼町、子飼通りの南側)の借家へと移りました。